

兵庫県医師会会報

○正月からブツブツ

平成 21 年 1 月号(通巻 663 号) : 新春随想 2 0 0 9 丑

昨年秋にテレビの日医のテレビCMをみました。意見広告です。納得できずに正月からぼやきです。

+++++

(画面には脳卒中とおぼしき P E G のある男性患者とその奥さん)

もの悲しい音楽

(テロップで)

退院、うれしくないですよ

食事だって食べられないのに

次の病院ですか、全部断られました

毎日の医療処置を素人の家族がやるんですか

(ナレーション)

長期療養患者の半分以上が 5 年以内に強制退院させられる。

医療費抑制のためのベッド数削減に異議を唱えたい。

+++++

ごらんになったことがあるでしょうか。日医のホームページで見ることができます。一昨年末に作られていたようです。

どうして「強制退院」という言葉を使うのでしょうか。救急の「受け入れ困難」を「たらい回し」と表現されるのと同じで、とても身内からの言葉とは思えません。病院が冷たく無理矢理、退院させている印象です。

「毎日の医療処置を素人がやるのですか」、とのこと。PEG からの栄養補給のことのように、特に難しいことではなく、実家では素人の私の母が毎日父に行っています。

確かに病院ではこのように病状の安定した方では P E G の状態でも退院を誘導しており、可能な方には在宅療養を勧めています。ただし、患者さんを無理矢理追い出すようなことはしておりません。我々は極悪非道な悪代官ではないのです。

私どもの病院では専門のスタッフを配置して、退院後のことも一所懸命に相談しています。転院、施設入所、在宅療養を個々に相談して、路頭に迷わすようなことはしていません。在宅療養をすることとなって、さまざまな処置が必要な場合は指導をしていますし、在宅での医療、看護、介護等の提供についても十分相談しています。

病院の苦勞が全く反映されておらず、在宅療養の否定につながります。医療費削減、ベッド数削減に異議を唱えたいのは当然ですが、こんなTVCMでは、入院患者に不安を与えるだけの内容であり、我々の日々の入退院相談の妨げになってしまいます。日医はどうしたのでしょうか。小児救急の不備についてのTVCMもありました。ここでも極悪非道な病院が、苦しそうにしている、いたいけな子供さんを冷たく門前払いしている様子を見ることができます。

なんだかおかしい。ブツブツ、ブツブツ。